

県民の森 植物紹介 ⑤ トドマツ（マツ科）

トドマツは、千島・サハリンから北海道に自生している常緑針葉樹で、北海道を代表する木材として有名です。本州以南には自生はしません。七滝登山道上部や八幡平などの稜線に自生しているアオモリトドマツ（オオシラビソ）と混同されがちですが、同じマツ科モミ属のなかの別種です。

トドマツ林をあるくと清々しい香りがして爽快な気分になります。このような「森林の香り」は、木が放出している揮発性の化学物質で、殺菌、防虫、殺虫、リラックスなど生物に何らかの作用をもたらす効果が知られています。この化学物質は、木の枝葉を蒸留することで液体として回収でき、「精油」と呼ばれ、香りの元として利用されています。トドマツは国内樹種で精油の含有量が飛び抜けて多く、環境汚染物質である窒素酸化物を除去する優れた効果もあり、注目されています。また、材は土木、建築などあらゆる用途で使用されています。

冬、トドマツの葉に雪が被る姿はひときわ美しく、木々の間をあるくと荘厳な気持ちになります。県民の森では、昭和の森や記念の森、そして七滝周辺で植林されており、四季を通じて気持ちの良い散策が出来ます。



昭和の森の植林 2021年2月16日



新葉の芽吹き 2021年5月16日



七滝前の植林 2021年11月4日



雪積もる 2021年1月9日